学校の沿革と概要

昭和54.4.1 牛久町立中根小学校創立 (岡田小学校より分離独立)

6.24 校舎第2期工事完成移転

7.27 プール竣工

開校記念祝賀会開催 55. 3. 9

(記念碑建立及び記念誌の発行 校章・校歌の披露)

56. 3.10 体育館竣工

58. 2.22 5 教室增築校舎工事完了

牛久市立中根小学校と改称(牛久市市制施行) 61. 6. 1

63. 6.24 創立10周年記念祝賀会開催(式典及び事業)

茨城県児童生徒のボランティア活動普及事業協力校指定 平成 3. 6.28

7. 3.27 世界児童画展 文部大臣全国団体奨励賞

子供避難の家(あんしんハウス)設置 10. 1

10. 6.24 創立20周年記念航空写真撮影・祝賀講演会開催

職員室・図書室改築工事 プレハブ図書室設置 17. 3.10

18. 3.31 校舎増築工事完了

別館校舎工事完了 20. 3.31

牛久市立ひたち野うしく小学校と分離 22. 4. 1

4.12 文部科学省創意工夫育成功労学校賞受賞

24.11.12 校舎地震補強工事完了

25. 3.27 体育館地震補強工事完了

27. 3.31 C館校舎工事完了

28. 9. 5 牛久市花いっぱいコンクール会長賞(4年連続)

29.12.13 県学校保健会委嘱学校保健会実践校発表会

30. 8. 2 牛久市花いっぱいコンクール会長賞(5年連続)

令和 元. 11. 1 県学校保健推進訪問

2 地域の概況

中根小学区は、牛久市最北部に位置し、学区の中を国道6号線とJR常磐線が南北に走っている。地形は北西 から流れる小野川付近の低地をはさんで、20m前後の丘陵地となっている。学校周辺は田畑が多く、その外側 に住宅密集地がドーナツ型に広がっている。平成元年より北部地区ニュータウン開発が進められ、ひたち野うし く駅周辺の宅地開発が進んでおり、学区内の人口も急増している。平成22年4月1日に「牛久市立ひたち野う しく小学校」が新設され分離した。保護者・地域社会による強い協力体制が取られている。

学校周辺略図 】

玉

道

6

号

3 学級編制

(1) 学級編制

(令和6年5月1日現在)

ひたち野うしく駅

西大通り

中根小

大和田踏切

猪子踏切

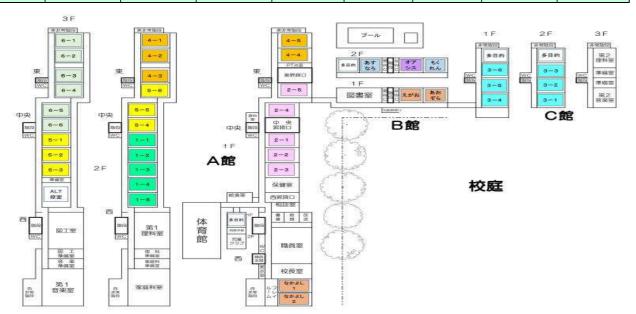
JR常磐線

学 年		1年	2年	3年	4年	5年	6年	特	合 計
学 級 数		5	5	6	5	6	6	6	3 9
	男	8 8	7 1	9 2	8 7	8 9	100	(27)	5 5 5
児 童 数	女	7 0	7 4	9 0	7 8	100	8 9	(10)	5 1 0
	計	1 5 8	1 4 5	182	165	189	189	(37)	1065

(2) 児童数の推移

	H 2 8	H 2 9	H30	R元	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
男	574	602	633	642	6 2 7	609	602	568	5 5 5
女	5 3 0	562	598	593	608	586	567	5 3 3	5 1 0
合計	1104	1164	1 2 3 1	1 2 3 5	1235	1195	1169	1101	1065

4 教室配置



学校経営の方針



令和6年度牛久市立中根小学校グランドデザイン

本県の教育目標

ひとりひとりの能力を開発し

豊かな人間性を培う じょうぶな身体をつくり たくましい心を養う

郷土を愛し

教育理念1

協力し合う心を育てる

下根中学校区の目指す幼児・児童・生徒 のびのびよさを伸ばす子 自分で考えやりぬく子 心豊かで互いに協力し合う子心身ともにたくましい子

学校教育目標

自ら学び 心豊かに

たくましく生きぬく 児童の育成

な

教育は人なり (高い人間性・高い同僚性) なかよく

かしこく

ね ねばりづよく

本市の教育目標

知性に富み心身ともに健康で 人間性豊かな児童生徒を育

未来を自分らしく生き 自分や社会に起こる課題の解 決ができる資質・能力の育成

てる

一人も見捨てない一人残らず幸せにする (リスペクト・ケアリング)

学校経営方針

か

|未来を切り拓く資質・能力(協働して解決する力等)を育成する質の高い学びの実現

~ 一人一人のよさや可能性を見いだし伸ばす学校づくり ~

組織目標

一人一人の子供の姿から学び、授業をアップデートする

~子供の姿を見る教師、子供の声を<mark>聴く</mark>教師、子供の思いを<mark>想像する</mark>教師~

生きて働く「知識・技能」

未知の状況にも対応できる

「思考力・判断力・表現力等」

- ① 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善
 - ・単元のまとまりを見通した授業デザイン
- ・ねらいを達成した子供の姿の具体化 ・ICTや「ヒト・モノ・コト」の効果的な活用
- ② 協働的な学びの充実
 - ・探究的な学び(問題の発見、試行錯誤と協働、アウトプ ット、振り返り)の充実
- ③ 個別最適な学びの充実
 - ・単元計画への位置づけや補充学習の時間の効果的な活用
- ④ 総合的な学習の時間の充実
 - ・質の高い探究課題「地域で学ぶ」「地域で生かす」「地域と創る」

研修テーマ 互いのよさを生かして 協働して解決できる児童の育成

- 自主課題の設定
- ・付けたい資質・能力を明確にした授業づくり
- ・課題解決に向けた提案授業と同僚とのリフレクション
- ・授業改善の視点を得るためのグループ研修(年5回)

学びを人生や社会に

生かそうとする 「学びに向かう力・人間性」

- ① 安心・居場所感のある教室づくり
- ・聴き合う関係の徹底を通した自己肯定感の育成
- ・「教えて、助けて」「ありがとう」の徹底を通した自己肯定 感・自己有用感の育成
- ② 児童のよさや可能性に目を向ける学級経営
- ・一人一人の児童の実態把握と変容の的確な見取り
- ③ 授業を通した絆づくり
- ・質の高い課題設定とペア・グループによる課題解決
- ・協働を通して「分かった」「できた」を実感できる授業
- ・学級活動における合意形成を図る話合い活動の充実
- ④ 基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚
- ・グッドモデルの共通理解と肯定的なフィードバック 教職員の率先垂節

(評価指標)

- 「学校が楽しい」(児童) ・「学級内に話せる友達がいる」(児童)
- 「授業がわかる、おもしろい」(児童)
- ・「授業中わからないときに友達に訊くことができる」(児童)80%以上
- ペアやグループでの学習は役に立つ」(児童)
- ・「毎時間、児童全員に表現の機会がある」(担任)
- ・「人の役に立っていると思ったことがある」(児童) 「進んであいさつをしている」(児童)
 - 80%以上

90%以上

95%以上

80%以上

85%以上

90%以上

80%以上

信頼される学校づくりと働き方改革の推進

- 〇トップダウンの指導とボトムアップの研修(コンプライアンス推進委員会)による服務規律の確保 ・社会人としての「当たり前」を当たり前に行ったり、服務規律に係る知識をつけたりする指導と自分事にするための研修の組合せ
- ○組織での対応と、それを支える報・連・相・確の徹底
- ○「授業づくりのための働き方改革」目的を正しく捉えた働き方改革の実行
- ・職員の意識改革:質の高い教育課程の実施のための「働き方改革」、ゼロベースでの教育活動の見直し ・付けたい資質・能力による「カリキュラム・マネジメント」の推進 ・会議や保護者通知の ICT 機器を活用したペーパレス化
- ・働き方改革推進委員会による意識化 ・働き方改革の正しい理解を目指した情報発信

- 家庭・地域・学校の連携の推進による開かれた学校づくり・社会に開かれた教育課程の推進
- ○9年間を見通した授業づくりを中心とした幼小中一貫教育の推進
- ○学校公開日や学校行事等の積極的な公開など、日々の教育活動を通した学校理解の推進
- ○学校運営協議会との熟議を通した社会に開かれた教育課程の推進 ○各種便りやホームページ等の積極的な情報発信